



ココロとココロ
～届け 私たちの思い～

制服を着て、学校に行こう

「制服のスカートを手にしたときが一番うれしかった」

どんなに晴れがましい気持ちで学校に向かう道を歩いただろうか？ はにかみながら話す少女の笑顔の前に、NPO法人国際子ども権利センター（シーライツ）カンボジア事務所の筒井博司さんは少女の気持ちに思いをはせる。

17歳の彼女は現在中学3年生。シーライツが人身売買を防止するためにスバイリエン州で進める「奨学金事業」の受給者の一人だ。奨学金は、昨年从今年にかけて半年にわたって支給された。対象となったのは、安定した収入が得られない家庭の子どもたち50人。奨学金の前身は、学校の制服をはじめとする学用品や日用品、そしてコメ。そのうち、23人分の学用品を購入する資金がJICA基金で賄われた。

「子どもを工場で働かせればいいお金になるのに、なぜ学校に通わせるの？ そう言って笑われることもあるんで

として、隣国のタイやベトナムに売られていく子どもたちがいる。

また、性的搾取のために国内の都市部や国外に女性たちが売られている問題も深刻で、その中には未成年の少女も含まれる。総人口の43%を18歳未満が占めるカンボジア。親たちは、貧しさゆえに子どもを働き手にせざるを得ない。貧困から生まれる厳しい現実が子どもたちを襲っている。

侵害されてはいけない 子どもの権利

シーライツのスバイリエン州での活動は、2006年から始まった。貧困家庭の収入を増やすことで、「人身売買」「児童労働」「性的搾取」などを防止し、子どもの権利を守ろうという収入向上プログラムの実施している。具体的には、牛を貸し出して農業の効率を上げ、収入の向上を目指す牛銀行、高利貸しからの借金を避け、子どもの病気など

健やかで 伸びやかな成長は 子どもの権利

カンボジア東南部に位置するスバイリエン州。今ここで、NPO法人国際子ども権利センター（シーライツ）が、子どもの人身売買を防止する活動を進めている。その一つが、奨学金を提供することで就学をサポートし、人身売買のリスクを少しでも軽減しようという取り組みだ。

支給された白いブラウスを着て笑顔を見せる奨学生。右は「スカートを手にしたときが一番うれしかった」と話した少女



奨学金事業で子どもたちに給付された学用品。鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、ボールペン、修正液、コンパス、定規、筆箱、ノート、リュックサック。白いブラウスに紺のスカートの制服も含まれる

す。でも、私たちが貧しいのは教育を受けていないからです。娘には私たちのようになってほしくありません」
傍らで見守る母親は、娘の将来を思い、そう話す。

カンボジアは、アジアの中でも最も貧しい国の一つ。1日1ドル未満で暮らす人の割合は約40%。貧困が原因で5歳くらいから労働を強いられ、学校に通えない子どももいる。小学校に入学した児童が5年生まで在学できるのは49%というデータもあるほどだ。

過酷な労働は子どもたちの健全な成長を妨げることもなる。中でも最悪の児童労働といわれているのが、人身売買だ。実際、路上での物ごいや物売り

「子どもには決して侵されてはならない権利があります。健やかに、伸びやかに成長する権利です」

08年、カンボジア政府は新たに「人身売買規正法」を制定した。とはいえ、いまだに汚職が人身売買を防ぐ上で大きな障害となっている。健全に成長する権利の確保は、大人たちが果たさなければならぬ子どもたちへの約束だ。豊かで明るい社会は、健やかに育つ子どもたちが創っていく。

にコメが含まれるのもそうした理由からだ。
並行して、筒井さんたちは「人身売買防止ネットワーク」の構築にも取り組んでいる。現地のNGO、HCC (Health Care Center for Children) と連携して取り組む活動だ。ここで進められているネットワークづくりは2つ。1つは、村長や教師、僧侶などを構成員とする地域ベースのネットワーク。地域のキーパーソンたちが、人身売買の現状や子どもたちが受ける精神的・身体的影響などについて学び、自分たちの責任を自覚する。そしてもう1つは、10人程度の子どもによる学校単位のネットワーク。子ども自身も自身が人身売買の手口や児童労働の危険性などを学びながら、自分たちの権利について考えると

緊急時に備えるのための貯蓄グループの開設、農業や家庭菜園に関する技術指導、井戸や灌漑ポンプの設置などがある。今回の「奨学金事業」もその一環だ。少なくとも義務教育の9年間は、少女たちが学校に通い続けることができるように家計をサポートする。奨学金



(上)コメの授与式。家計をサポートし、子どもたちの就学を実現するためにコメも奨学金事業の一部 (中)奨学金事業の支援を受けた少女とその母親。左はシーライツ・カンボジア事務所の筒井さん (下)収入向上プログラムの一環で設置された井戸で水浴びする子どもたち

奨学金事業で子どもたちに給付された学用品。鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、ボールペン、修正液、コンパス、定規、筆箱、ノート、リュックサック。白いブラウスに紺のスカートの制服も含まれる

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>